神戸新聞 2018年07月22日 日曜日 面名 発言２ １４ 6ページ

日曜小論

論説委員室
辻本 一好

夏こそ生かしたい太陽の力

夏の猛暑は農家にとっても大きな負担だ。人も作物も地球温暖化への対応を迫られている。そんな中、太陽エネルギーをもっと生かそうという技術が広がりつつある。

一つは太陽光発電による水やり装置だ。ソーラーの電気で水路からくみ上げた水を野菜畑に巡らせたチューブに流す。80㌧の小さなパネル1枚あれば、1千株以上でもくまなく3㍑ずつ供給できる。10万～20万円の費用で過酷な水やり作業から人を解放する。水やりのむらがなくなり収穫を4割増やした人もいる。

この装置がユニークなのは、太陽光の量を水量の制御システムに連動させている点だ。日照の変化に応じて、作物が水を欲する時に必要な量だけ与えてくれる。

もう一つはソーラーシェアリング。農作物の育成には太陽光の6～7割で十分という知見を基に、農業と発電を両立する技術だ。

畑に降り注ぐ光の3割を発電に使えるよう、上空にパネルを市松模様に設置する。残り7割の光で作物は従来通り育つ。パネルの影で農作業が楽になるメリットも大きい。

自然の理にかなったこうした技術は人の意識や発想の大切さを教えてくれる。

同時に違和感を覚えるのが、大量の熱を放出しながら発電する火力や原子力に頼る今の暮らしの不自然さだ。

そうした社会を転換するには、無尽蔵の太陽の力をエネルギーとして身近な場所で活用する知恵や仕掛けが要る。

真っ先に浮かぶのは日本中の学校に足りないクーラーだ。太陽光発電とセットで増やしていくために、クラウドファンディングなどでOBや住民から出資してもらう仕組みを広げてはどうだろう。平日は学校で自家消費して休日は売電する。もちろん災害時の大きな備えにもなる。

エネルギーの観点で理にかなった仕組みを地域に増やしていく。これこそ私たちが地球温暖化に対抗するための基本戦略になると思う。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① この日曜小論を200字以内で要約しましょう。

名前【　　】

NIEワークシート／中学校～高校／国語、総合、朝NIE